

満州から博多・佐世保港に

引き揚げてきた子どもたち

～二人の体験談を交えて～

シンポジウム

満州から博多・佐世保港に引き揚げてきた子どもたち
～二人の体験談を交えて～

司会進行

細井 勇（附属研究所特任教授）

シンポジスト

松本幸治（大村子供の家施設長）

内山大樹（同胞援護婦人連盟 オリーブみらい塾長）

鬼塚 香（駒沢大学文学部准教授）

証言（ビデオ）

角野須恵子さん

東 陽子さん

日時

2024年2月17日（土）

午後1時半～3時（受付開始午後1時）

会場

福岡県立大学 大講義室ないし
附属研究所大セミナー室

〒825-8585 福岡県田川市伊田4395

情報交換会（定員50名、先着順）

日時 | シンポジウム後、午後3時15分～4時45分

会場 | 附属研究所大セミナー室

主催：福岡県立大学附属研究所

協力：西日本新聞田川支局、福岡県立大学COC研究「炭鉱閉山による児童問題から引揚孤児問題へ」

参加費
無料
（要事前申込）

※申込方法は裏面に記載

満州から博多・佐世保港に

引き揚げてきた子どもたち

二人の体験談を交えて

まもなく、戦後80年を迎えようとしています。満州から引き揚げてきた子ども達の証言を聞く機会は今無くなるだろうとして今日、今回の公開講座は証言をお聞きする貴重な機会となるでしょう。

角野須恵子さんは、満州北部の鶴岡から綏化（すいか）、新京を経て、種々のことが重なり、父がソ連兵によって捕虜にされることを免れ、両親とともに昭和21年8月に佐世保に到着することができました。しかし伝染病蔓延により佐世保沖で一か月停泊しなければならなかった、と言います。角野さんの引揚の記憶は鮮明です。

東陽子さんは、奉天の婦女孤児収容所で昭和21年7月頃保護されていた引揚孤児の一人で（当時5歳くらい）、足が凍傷で、本籍地不明、親の名前も自分の名前も分からないという状態で、収容所の医師が名付け親となって救済保護された方です。

博多や佐世保は満州からの引き揚げ基地でした。そして、引揚孤児と言えばほとんど満州からの引揚孤児でした。県立百道松風園は引揚孤児の一時保護施設として昭和21年7月に開設され、聖福寮が同年8月病児の保護施設として開設されました。続いて大村子供の家が引揚孤児の保護施設として同年10月に開設されています。同年6月に発足した同胞援護婦人連盟（上野、現在は八王子市）は、同年9月24日に33名の引揚孤児を、同年12月5日にも33名の引揚孤児を保護しています。

東さんは、おそらく8月頃に佐世保に上陸、一端百道松風園に一時保護されたと思われます。そして、9月24日に博多から婦人連盟（上野）に保護されたのです。生年月日は6月10日となっていますが、それは婦人連盟が国際的平和を願って誕生した日でした。現在婦人連盟は80周年を前に内山さんや鬼塚准教授が中心となって引揚孤児の調査を開始しているところです。

ところで、昭和21年12月5日に婦人連盟に保護された33人は、大村子供の家から移送された引揚孤児でした。大村子供の家と婦人連盟は引揚孤児救済でつながっていることとなります。角野須恵子さんは、大村子供の家の松本施設長の妻方の祖母です。

戦後80年になろうとしている今、「満州から引き揚げてきた子どもたち」の問題に目を向けようとする本公開講座の試みが、戦争が意味したものを再考し、さらに歴史を語り直すことの機会となれば幸いです。多くの市民の皆様、学生の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

なお、公開講座の後、情報交換会の場を予定しております。

申し込み方法

右記のQRコードか下記のURLより申し込み下さい。

<https://forms.gle/LaY9PremtPGPB9so7>



※申し込みの締め切り

会場決定の参考にしますので、申し込みは**2月2日（金）**までをお願いします。

対面かオンライン参加か選択できます。

オンラインでご参加の方は、事前にZoomアプリのダウンロードをお願いいたします。

前日までにZoomのURLをメールアドレスにお送りいたします。

交通アクセス

JRを利用する場合

博多方面から

博多駅→新飯塚駅→田川後藤寺駅

→田川伊田駅

（約1時間20分）徒歩約15分

小倉方面から

小倉駅→田川伊田駅

（約1時間）徒歩約15分

西鉄バスを利用する場合

福岡（天神）方面から

西鉄天神高速バスターミナル

→福岡県立大学

（約1時間25分～1時間45分）



問い合わせ先

福岡県立大学 附属研究所

福岡県田川市伊田 4395 TEL：0947-42-1326（村田）

本講座は、田川市・福岡県立大学包括連携協定に基づき、田川市から一部助成を受け実施しています。